

令和元年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪府中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成31年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

4 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

令和元年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
実施月日			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	41	72	59	52	2.1	6.6	5.9
	大阪市	—	70	57	54	3.5	8.8	6.7
4月18日	全国	—	72.8	59.8	56.0	2.6	7.3	6.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	41	58.1	42.6	54.7	47.6	42.8	3.6	5.4	11.2	3.3	4.1
	大阪市	—	56.6	45.9	52.5	47.4	46.2	6.0	6.0	13.2	5.9	5.4
6月19日	大阪府	—	57.1	46.2	53.5	47.7	47.0	6.2	6.2	13.2	6.2	5.2

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
実施月日			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	41	65.1	48.5	56.2	51.3	60.5
10月3日	大阪市	—	67.9	51.7	61.6	55.2	68.3

4 大阪市英語力調査（英検IBA）

学年		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級 LV以上 (%)	英検4級 LV以上 (%)	英検5級 LV以上 (%)
実施月日								
3 年	学校	41	55.7	44.6	54.8	47.2	—	—
10月23日	大阪市	—	61.5	55.0	54.6	54.0	—	—

令和元年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜成果＞

リスニングについては正答率54.8%で、大阪市平均54.6%を上回った。全国学力・学習状況調査・チャレンジテスト・統一テスト等でもリスニングは比較的できており、C-NETの活用をはじめ授業での取り組みの成果が出ている。

＜課題＞

語い・単語・文法や読解については、大阪市平均を下回った。特に読解は市平均よりも10ポイント差がある。英検3級以上レベルの生徒の割合は47.2%で、昨年度の48.5%より下回った。しかし同一母集団でみると、昨年度(2年時)4級以上レベルの大阪市平均と本校の差は11.3ポイントあったが、今年度(3年時)3級以上レベルの大阪市平均と本校の差は6.8%に縮まっている。

【今後に向けて】

チャレンジテスト・統一テストでは書く力が、全国学力・学習状況調査では読む力が課題となっている。引き続きリスニングの取り組みを継続するとともに、文章の読解と正しく書くことを重点的に取り組む必要がある。文法、語いを正しく理解させ、定着できるように、指導の工夫、自主的な学習習慣の育成を図っていく。